

Advertising Works 2004

春のキャンペーンは、さわやかな春を運ぶ花の楽しさを、夏は、砂と太陽・深い影、旅を素材として夏の「熱」を、秋は、秋を感じさせるカラーとイラストで街の佇まいをモチーフに使い、それぞれの季節の空気感を切り取り、PARCOの今を表現しました。

2004年9月の渋谷パルコ・パート3 NEW OPENでは、全面改装で生まれ変わるパート3 のビルをはじめ、リアルな渋谷の風景を取り入れ、新しくなる「SHIBUYA TO PARCO」を表現しています。

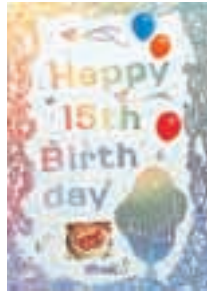
■ 2004年春
[PARCO SPRING]



■ 2004年夏
[PARCO SUMMER]



■ 2004年5月
名古屋パルコ開店15周年
[HAPPY 15TH BIRTHDAY]



■ 2004年夏
[PARCO グランバザール]



■ 2004年秋
[PARCO AUTUMN]



■ 2004年秋
[BEAUTIFUL DENIM]



■ 2004年秋
[BEAUTIFUL DENIM]



■ 2004年9月
渋谷パルコ・パート3 NEW OPEN [SHIBUYA TO PARCO]



PARCO

株式会社パルコ

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町4番3号

TEL: 03-3477-5731 (総務担当)

<http://www.parco.co.jp/>



第66期中間事業報告書
2004年3月1日～2004年8月31日

コア・コンピタンスを集結して、 新生パルコの構築へ

代表執行役社長 伊東 勇



中間期の営業状況と業績について教えてください。

当社を取り巻く事業環境は、大規模商業施設の新設が相次ぐなど企業間競争が更に激化し、厳しい経営環境が継続しています。こうしたなか、パルコは、引き続きパルコネットワークの再編を進め、本業に経営資源を集中することで営業活動の活性化と財務体質の改善に努めてきました。

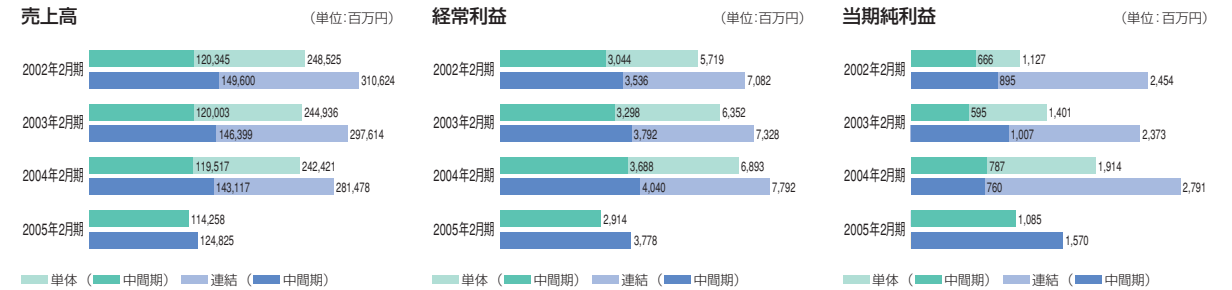
当中間期の営業活動においては、調布、津田沼、新所沢パルコをはじめとする店舗において、エリアごとのマーケットニーズに適応した新規MDの導入をすすめるなど、積極的な店舗の新陳代謝を推進した結果、トータルの改装規模は324区画、約32,200m²、当該区画の売上高前年同期比は114.9%となりました。(株)パルコスペースシステムズ(PSS)では、店舗改装に伴う出店テナント向けの内装工事受注が大幅に増加したほか、外部ディベロッパー等の工事受注増などにより、収益を大きく伸ばしました。

また、財務体質の改善一環として、昨年度に実施した株式会社リプロ株式の売却、ホテル事業の再編等について、当中間期は株式会社ウェィヴの売却、当社の自己株式処分にかかる株式の売出しを実施しました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は、1,248億25百万円(前年同期比87.2%)、営業利益は41億1百万円(前年同期比91.8%)、経常利益は37億78百万円(前年同期比93.5%)、当期純利益は15億70百万円(前年同期比206.5%)となりました。

通期の取り組みについて教えてください。

ディベロッパー事業においては、「渋谷PARCO パート3」のグランドオープンや「名古屋PARCO」のリニューアルを皮切りに、積極的に改装を実施し、既存店強化を引き続き進めています。「札幌PARCO」においては、買収した隣接の「マルサ



2ビル]をリニューアルし、2館体制によりファッションビルとしてのスケールアップを図り、来春の30周年に向けたオープンを目指します。さらに、2005年2月には、森トラスト(株)との業務提携の一環として「東京汐留ビルディング」内に計画してきた商業施設「Pedi(ペディ)汐留」のオープンを予定しているほか、2004年7月に出店に関して基本合意した仙台市「中央1丁目第二地区市街地再開発事業」については、2007年秋のオープンに向けて開店準備作業に着手していくなど、大型改装や営業企画の継続展開により、売上の早期回復を図っていくとともに、事業開発機能の再編と強化により、新たな収益事業の開発・育成を本格化していきます。

また、(株)ヌーヴ・エイが展開する専門店の積極的なスクラップ&ビルドを進め、事業会社としての強固な経営基盤を構築していくほか、(株)PSSについては、外部ディベロッパーからの受託増を通じて、商業施設のプロパティマネジメント事業の育成・拡大を目指していきます。

引き続き、“改革”を推進する上で、注力していくことは？

パルコのような業態にとって最も重要な経営資源は“人(人財)”と“情報”であると考えており、その意味でメーカー企業における研究開発費と同様に予算化するなどして、取り組み

を強化していきます。経営体制の改革については、2002年度に執行役員制を導入すると同時に、社外識者を交えた指名委員会、報酬委員会、特別諮問会議を設置して、経営の“意思決定・監督”機能と“執行”機能を明確に分離しました。

また、2003年4月の商法改正によって選択的に導入が可能になった「委員会等設置会社」に当期より移行したことで、経営の透明性・健全性・効率性は従来より一層高まったと考えています。

一方、人材採用や能力開発については、「U-29 パルコライアル」というコンセプトで、新卒者にこだわらず幅広く有用な資質をもった人材を採用する新たな試みをスタートしたほか、既存社員に対して再教育の場を設け、“市場価値の高い人材”、“経営感覚をもった人材”の育成に取り組んでいます。こうした試みを積み重ねることで、将来は40代の社員を社長に抜擢できるような会社にしていくとともに、改めて“企業は人(人財)”という観点に立ち、“人財”蓄積に意欲的な社員のために会社が然るべきサポートをし、それが結果としてパルコという企業の発展につながるような仕組みをつくりあげていきたいと考えています。

郊外型PARCO、それぞれのMerchandising (MD) 戦略に迫る



新所沢店長 山木 知行

多様な機能を備えた「コミュニティ型SC」として 日常を楽しめる空間を創出する。

「新所沢PARCO」は、1983年のオープン以来、ファッションだけでなく、カルチャーやエンタテインメントなどの機能を付加した“コミュニティ型ショッピングセンター(SC)”として歩んできました。しかし、数年前から近隣にモール型SCが相次いで出店したほか、商圏内に新築マンションを購入する団塊ジュニア世代ファミリー層が増加したことによって、当店を取り巻く環境も大きく変化しています。

そこで、コミュニティ型SCとしての機能を強化すべく、徹底したリマーケティングを実施し、これまでもパルコ館とレッツ館を結ぶオープンスペース「ガレリア」の改修やファミリー向けファッション大型店の導入などの改装を行ってきました。

2004年度は“リラックスした日常性の追求”をコンセプトに、家族でデイリーに通える店舗づくりに取り組んでいます。上半期には「食品フロア」のリニューアルを実施し、スーパーマーケットゾーンと専門店ゾーンから成る新しい食品フロア「PARCO FOOD TERRACE」をオープンしました。商品ラインナップや価格帯を大幅に見直し、若年層から高年層まで幅広いニーズにお応えできる売り場へとリニューアルしたことで、改装オープンした7月は前年同月比で売上2倍以上、お客様数は3倍以上となりました。

今後もこの改装効果を維持するとともに、コミュニティ型SCの完成に向けて、歩いて楽しい店舗——いわゆる“回遊性”を向上させるために、マーケットの顧客ニーズを捉えた商品の充実化やフロア間のスムーズな導線などをコアとした改装を進めています。

PARCOのブランド力と駅ビルの性格を併せもつ 独自の存在感を発揮したい。

今春の改装にあたっては、「津田沼PARCO」がもつ強みをもう一度整理・明確化することから始めました。その結果、大きく二つのポイントが浮かび上がってきました。

その一つが、「駅ビル」という立地メリットです。津田沼駅には、毎日たくさんの人が行き交います。そうした方々が学校や仕事の帰りに「ちょっと立ち寄ってみようかな」と思える新しいきっかけを作ることができれば、集客力の向上につながるかと考えたのです。

もう一つのポイントは“PARCO”がもつブランド力でした。最先端のスタイルを集めたファッション専門ビルというイメージを強化することで、東京圏に属する“津田沼”という市場性とよりマッチする店舗づくりが可能であると考えました。

こうした考えをもとに、まず駅に直結しているA館2階エントランスの拡幅や、ファザードの改修などを実施し、「JR津田沼駅＝PARCO」というイメージの確立を図りました。さらに、雑貨・アクセサリーゾーンを強化し、輸入雑貨専門店「ソニープラザ」を導入するなどテナントのバラエティ感を向上させたほか、「OL・キャリア」や「ティーンズ・ヤング」など、お客様層に合わせたテーマをフロアごとに再設定し、テナント数全体の1/2に相当する大規模な改装を実施しました。その結果、改装テナントの売上は前年比で二桁アップを達成することができました。

今後も駅ビルとしての利便性や親和性を強化しながら、都心型のファッション基地としての独自の存在感を発揮し続けていきたいと考えています。



津田沼店長 柏本 高志

SHINTOKOROZAWA PARCO

スーパーマーケットゾーンは、シートゥーネットワーク(株)の新業態「キッチンランド」を核に価格競争力とクオリティを両立した商品構成を実現。また「活きのいい生鮮(青果、鮮魚、精肉)」の対面販売により、フロア全体の賑わいを強化しています。



専門店ゾーンは、お客様アンケート調査で要望の高かった洋菓子店を新規導入。デバ地下の人気店「FLOプレステージュ」や地元隠れた名店など6テナントを揃えました。



新所沢PARCO



TSUDANUMA PARCO



津田沼PARCO

B館4F「ソニープラザ」
多彩なコスメ・雑貨の品揃えと趣向を凝らした
プロモーションが魅力



B館3F「INDEX」
トレンドを意識し、働く女性に活躍度の高い
アイテムを販売



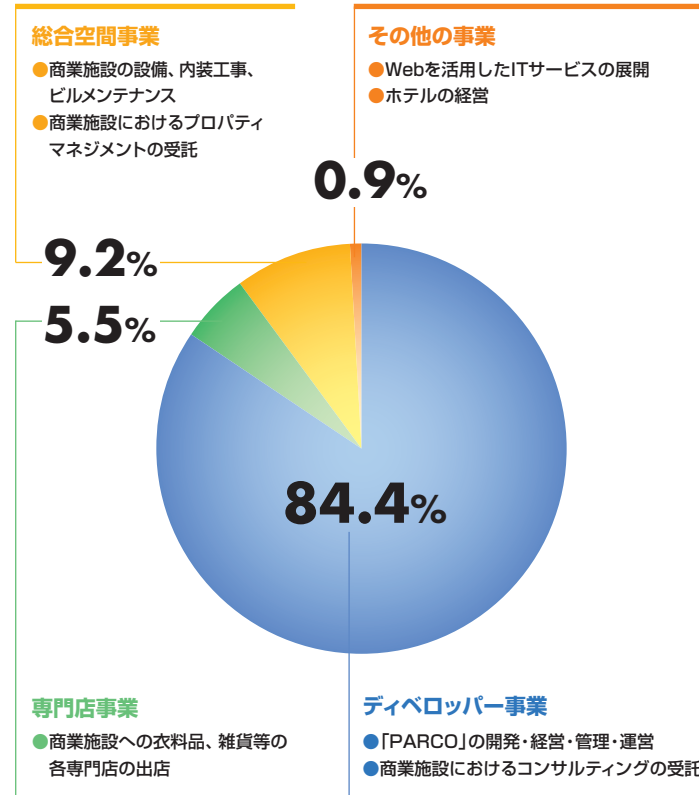
A館3F「アーニー・アーノルド・パーマ」
レトロスポーツ&プレッピーな大人のカジュアルスタイルを提案



B館1F「J.CREW」
知性と遊びの両方を兼ね備えたベーシックな商品を幅広く展開

各事業のコア・コンピタンスを集結し、新たなマーケットの開拓に注力

当期総売上における構成比



ディベロッパー事業



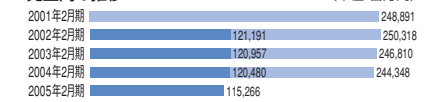
マーケットニーズに適応した新規MDを導入し、積極的な店舗の新陳代謝を推進

「ストア by スタア」の方針に基づき、店舗改装の実施によりマーケットニーズに適応した新規MDの導入をすすめるなど、積極的な店舗の新陳代謝を推進してまいりました。

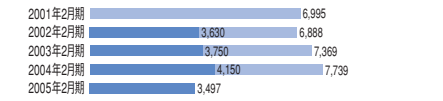
全国の店舗における上半期の改装規模は324区画、約32,200m²、当該区画の売上高前年同期比は114.9%となり、また夏のグランバザールでは、全店一斉スタートによる動員確保、セール商材の追加導入などが功を奏し、セール期間の売上が前年実績を上回りました。

しかしながら、春先のファッション商品の販売低調、大規模改装期間中の売上減少などが響き、売上高は1,152億66百万円(前年同期比95.7%)、営業利益は34億97百万円(前年同期比84.3%)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



通期 (■ 中間期)

専門店事業



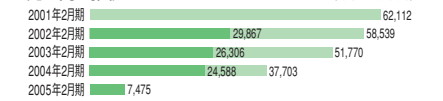
積極的なスクラップ&ビルドと既存店強化を実施、新規事業も売上・利益に寄与

株式会社ヌーヴ・エイは、当上半期に新規出店4店舗、撤退3店舗のスクラップ&ビルドを実施し、既存9店舗の改装による既存店強化を行った結果、売上高が前年同期比102.5%と伸長いたしました。

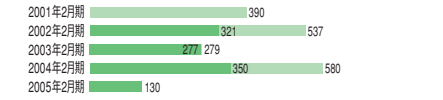
当社は、2004年4月に当社が保有する株式会社ウェィヴの全株式をタワーレコード株式会社へ譲渡し、2004年5月にタワーレコード株式会社の第三者割当増資の引き受けをいたしました。

連結子会社の減少もあり、売上高は74億75百万円(前年同期比30.4%)、営業利益は1億30百万円(前年同期比37.1%)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



通期 (■ 中間期)

総合空間事業

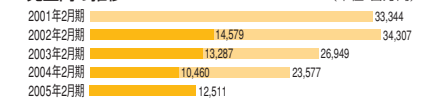


プロパティマネジメント(PM)事業をはじめとする新事業への取り組みを継続的に推進

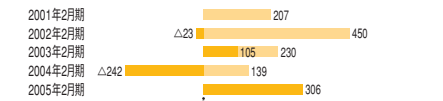
株式会社バルコスペースシステムズは、当社が実施した調布パルコをはじめとする店舗改装に伴い、出店テナント向けの内装工事受注が大幅に増加したほか、外部ディベロッパー等の工事受注増などにより、収益を大きく伸ばしました。また、当社から店舗開発機能の一部を移管し同社のプロパティマネジメント事業との統合・強化をし、新業態開発を進めてまいりました。

以上の結果、売上高は125億11百万円(前年同期比119.6%)、営業利益は3億6百万円(前年同期は営業損失2億42百万円)と大幅に改善いたしました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



通期 (■ 中間期)

その他の事業



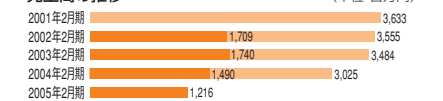
顧客コミュニケーション機能の深化とIT事業の強化を図る

株式会社バルコ・シティは、バルコネットワークのIT運用業務、PECカード企画といった顧客コミュニケーション業務を柱に、インターネット関連事業の受注、顧客コンサルティング機能を強化いたしました。

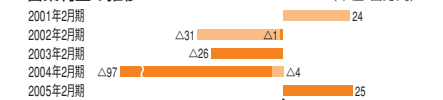
さらに、昨年度に実施いたしましたホテル事業再編の効果もあり、売上高は12億16百万円(前年同期比81.6%)でしたが、営業利益は25百万円(前年同期は営業損失97百万円)となりました。

※当期より、「カルチャー&IT等事業」を「その他の事業」に変更しております。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



通期 (■ 中間期)

(注) 1. 当社は2001年2月期末より連結会計となり、同中間期については連結数字を記載しておりません。
2. セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第66期) 2004年8月31日現在	前中間期(第65期) 2003年8月31日現在	前期(第65期) 2004年2月29日現在
資産の部			
流動資産	32,885	33,607	34,884
固定資産	168,169	175,746	168,804
資産合計	201,055	209,354	203,688
負債の部			
流動負債	50,621	58,389	54,452
固定負債	85,557	91,648	91,599
負債合計	136,178	150,038	146,052
少数株主持分			
少数株主持分	2,916	3,604	3,061
資本の部			
I 資本金	26,867	25,892	25,942
II 資本剰余金	27,105	25,318	25,368
III 利益剰余金	8,618	5,609	7,332
IV その他有価証券評価差額金	445	△349	314
V 為替換算調整勘定	△324	△46	△337
VI 自己株式	△753	△712	△4,043
資本合計	61,960	55,711	54,575
負債、少数株主持分及び資本合計	201,055	209,354	203,688

資産

子会社であった株式会社ウェイヴの株式売却に伴い、たな卸資産ならびに有形固定資産などが減少。総資産が前期末と比較して26億33百万円減少するなど、引き続き資産のスリム化を図っています。

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第66期) 自2004年8月1日 至2004年8月31日	前中間期(第65期) 自2003年8月1日 至2003年8月31日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
売上高	124,825	143,117	281,478
売上原価	106,955	120,591	238,560
営業収入	813	804	1,532
営業総利益	18,682	23,330	44,448
販売費及び一般管理費	14,580	18,862	35,553
営業利益	4,101	4,467	8,894
営業外収益	451	367	653
営業外費用	774	794	1,755
経常利益	3,778	4,040	7,792
特別利益	299	446	631
特別損失	1,110	2,959	4,296
税金等調整前中間(当期)純利益	2,967	1,527	4,128
法人税、住民税及び事業税	890	1,962	934
法人税等調整額	465	△1,140	432
少数株主利益又は少数株主損失(△)	40	△54	△30
中間(当期)純利益	1,570	760	2,791

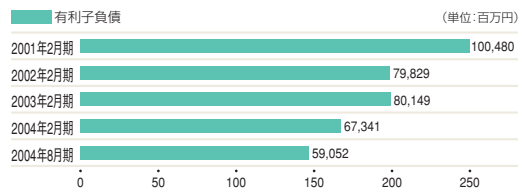
当期純利益

既存店舗改装に伴う除却等の費用を計上したものの、金融収支の改善や特別損失が大幅に減少した結果、中間純利益は、前年同期と比較して8億10百万円増と大幅な増加となりました。

負債

パルコネットワーク内資金の有効活用に伴う短期・長期借入金減少等により、負債は前期末と比較して98億73百万円減少しました。有利子負債については、前期より82億89百万円減少しています。

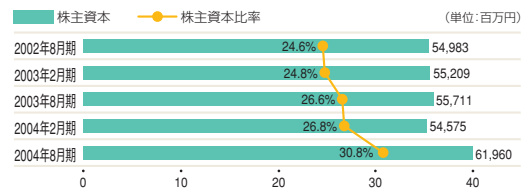
有利子負債



資本

自己株式の売り出し、第三者割当増資や転換社債の転換に伴う、資本金及び資本準備金の増加等により、株主資本は73億84百万円増加しました。

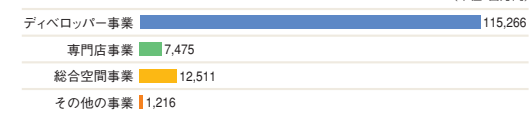
株主資本/株主資本比率



売上高

総合空間事業において売上が伸長したものの、子会社であった株式会社ウェイヴの株式売却による専門店事業の減少等により、売上高は、前年同期と比較して182億91百万円減少(前年同期比87.2%)となりました。

各セグメント別売上高の推移

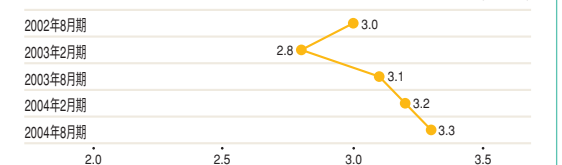


(注) 当期より、「カルチャー&IT等事業」を「その他の事業」に変更しております。

営業利益

パルコネットワークの事業再編等により、営業総利益は減少。引き続き、人件費や借地借家料などの販管費の削減に努めましたが、営業利益は前年同期と比較して3億66百万円減少しました。

売上高営業利益率の推移



営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益29億67百万円に、非資金項目である減価償却費や特別損益などを調整し、67億91百万円(前年同期は76億62百万円)となりました。

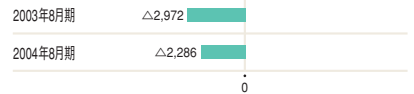
8億71百万円減 (単位:百万円)



投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、店舗改装による有形固定資産の取得による支出23億64百万円や子会社株式の売却による収入7億41百万円などにより、22億86百万円の支出(前年同期は29億72百万円の支出)となりました。

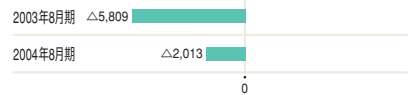
6億86百万円増 (単位:百万円)



財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の売却等に伴う収入41億4百万円、長期借入金の返済による支出59億82百万円等を計上したことにより、20億13百万円の支出(前年同期は58億9百万円の支出)となりました。

37億96百万円増 (単位:百万円)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前中間期(第65期) 自2003年3月1日 至2003年8月31日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,791	7,662	13,242
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,286	△2,972	△2,972
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,013	△5,809	△11,048
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	△2	△5
現金及び現金同等物の増減額	2,498	△1,122	△784
現金及び現金同等物の期首残高	16,041	16,825	16,825
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	18,539	15,702	16,041

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前中間期(第65期) 自2003年3月1日 至2003年8月31日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
(資本剰余金の部)			
I 資本剰余金期首残高	25,368	25,318	25,318
II 資本剰余金増加高	1,737	—	50
増資による新株式の発行	306	—	—
自己株式処分差益	813	—	—
転換社債の転換による資本剰余金増加高	617	—	50
III 資本剰余金中間期末(期末)残高	27,105	25,318	25,368
(利益剰余金の部)			
I 利益剰余金期首残高	7,332	5,189	5,189
II 利益剰余金増加高	1,570	784	2,814
連結子会社の減少に伴う利益剰余金増加高	—	23	23
中間(当期)純利益	1,570	760	2,791
III 利益剰余金減少高	284	364	672
配当金	284	307	615
取締役賞与金	—	56	56
自己株式処分差損	—	0	0
IV 利益剰余金中間期末(期末)残高	8,618	5,609	7,332

中間貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第66期) 2004年8月31日現在	前中間期(第65期) 2003年8月31日現在	前期(第65期) 2004年2月29日現在
資産の部			
流動資産	25,567	23,493	23,955
固定資産	169,290	175,016	169,568
資産合計	194,858	198,509	193,523
負債の部			
流動負債	45,605	49,077	45,447
固定負債	84,859	90,158	90,568
負債合計	130,464	139,236	136,015
資本の部			
I 資本金	26,867	25,892	25,942
II 資本剰余金	27,105	25,318	25,368
III 利益剰余金	10,730	9,110	9,929
IV その他有価証券評価差額金	443	△334	311
V 自己株式	△753	△712	△4,043
資本合計	64,393	59,273	57,508
負債及び資本合計	194,858	198,509	193,523

中間損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期(第66期) 自2004年3月1日 至2004年8月31日	前中間期(第65期) 自2003年3月1日 至2003年8月31日	前期(第65期) 自2003年3月1日 至2004年2月29日
売上高	114,258	119,517	242,421
売上原価	100,235	104,849	213,158
営業収入	866	830	1,724
営業総利益	14,887	15,498	30,985
販売費及び一般管理費	11,450	11,400	23,283
営業利益	3,436	4,098	7,701
営業外収益	209	202	476
営業外費用	732	612	1,285
経常利益	2,914	3,688	6,893
特別利益	219	363	826
特別損失	1,096	2,443	4,114
税引前中間(当期)純利益	2,036	1,608	3,605
法人税、住民税及び事業税	732	1,824	609
法人税等調整額	218	△1,003	1,082
中間(当期)純利益	1,085	787	1,914
前期繰越利益	1,052	630	630
中間配当額	—	—	307
自己株式処分差損	—	0	0
中間(当期)未処分利益	2,137	1,417	2,237

渋谷PARCO パート3
待望のグランドOPEN

2004年9月17日、渋谷PARCO パート3が
リニューアルオープンしました。新しいパー
ート3は、1階から地上5階までの中央上下エ



最先端のライフスタイルを発信する
渋谷PARCO パート3 堂々完成

スカレーターを新設。1、2階部分はガラス張りが多用され、ガラス壁面から明るい自然
光が差し込む開放感あふれるデザインとなっています。改装した約4,600m²には東京
初登場のショップを含めた80店舗がオープン。フロアごとの異なったコンセプトに基づ
き、ファッションを中心に、雑貨、インテリアなどを展開し、新しいファッション・ライフ
スタイルを提案していきます。

オープンでスタイリッシュな1階、2階部分のコンセプトは、「ファッションスタイルライブラ
リー」(1階)と「シブヤエレガンスカジュアル&セレブリティスポーツスタイル」(2階)。10代
を卒業し、コンサバティヴなファッションスタイルだけでは満足できない20~30代の女性
に向けて、「GOLD RUSH MERCURY」、「NINE」、「carlife」など話題のセレクトショップやセレブカジュアルのショップが勢揃い
しました。また、地下1階は「シングルライフ・ライブラリー」をテーマに、インテリア・雑貨をバラエティ豊富に取り揃えました。

鹿児島の新しいランドマーク
「アミュプラザ鹿児島」誕生

2004年春、鹿児島の街に九
州新幹線が開業し、西鹿児
島駅も新しく「鹿児島中央駅」



駅ビルとして九州最大を誇る「アミュプラザ鹿児島」

となるなか、駅周辺の環境や観光、ビジネス、ショッピングなどで地元経
済を活性化させる九州最大の駅ビルとして、「アミュプラザ鹿児島」が
2004年9月17日に誕生しました。

当施設は、パルコが「アミュプラザ長崎」に続きJR九州より受注したも
ので、プランニングおよびリーシング・運営体制まで全面的にコンサルテ
ィング。敷地面積約28,000m²、地上6階地下1階の計7フロアで営業面積30,000m²という大型商業施設として、幅広い層
のお客様に気軽にご来店いただき、1日いても飽きない楽しい空間づくりを目指しています。具体的には、鹿児島に初登場
のブランドもオープンしたファッションゾーン、鹿児島で最大規模を誇る本・CD・楽器のカルチャーゾーン、オシャレなダイニン
グレストランをはじめバラエティ豊かな食の専門店街、南九州初となる10スクリーンのシネマコンプレックス、プール・スパま
で充実したフィットネスクラブ、眺めが自慢の観覧車などで構成された新しい都市空間など、パルコのコンサルティング事業
のノウハウを結集させました。

来店目標は年間1千万人、初年度売上目標は160億円を設定しており、開業前日のプレオープンには、5万8千人と予想
を大幅に上回る人出を迎え、早くも話題沸騰しています。

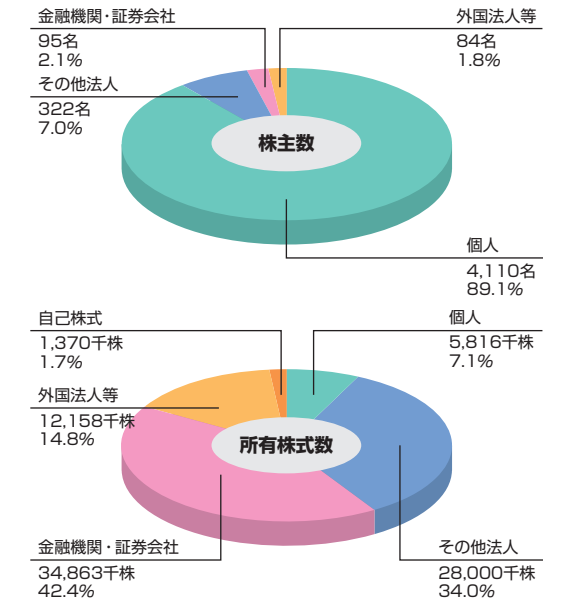
会社が発行する株式の総数 131,000,000株
発行済株式の総数 82,210,781株
株主数 4,612名

大株主(上位10名)

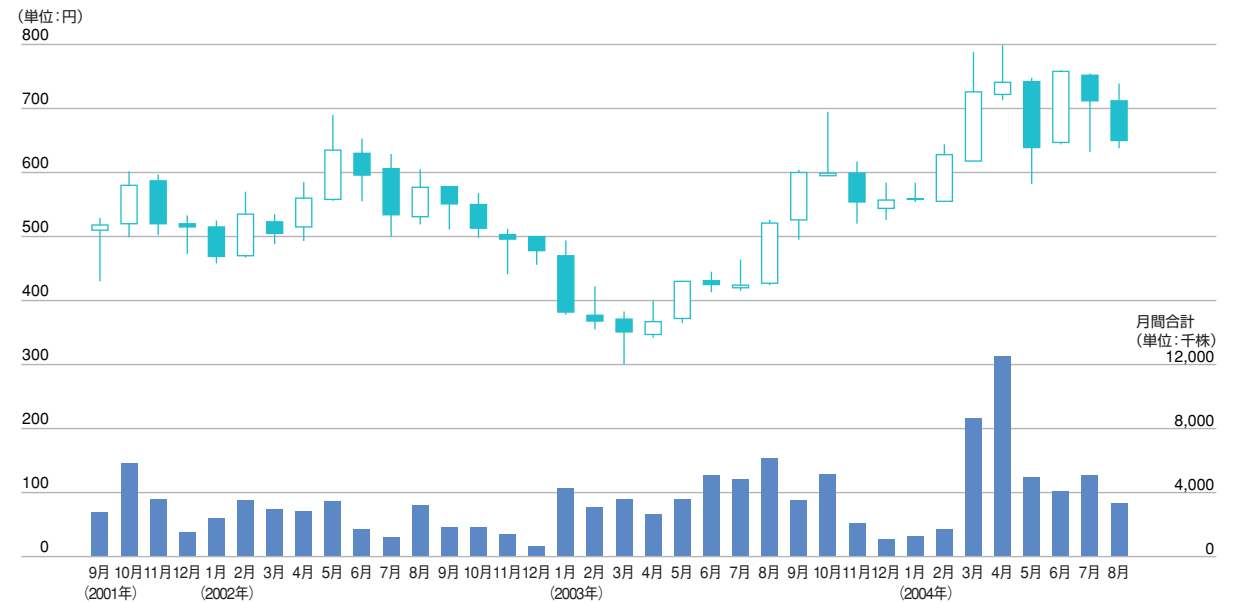
株主名	当社への出資の状況	
	所有株式数(千株)	議決権比率(%)
森トラスト(株)	19,179	23.89
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	7,851	9.78
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,704	9.60
(株)クレディセゾン	6,740	8.40
資産管理サービス信託銀行(株)(年金信託口)	2,152	2.68
(株)みずほコーポレート銀行	1,899	2.37
シーエーアイエス バンク ルクセンブルグ クライアント アカウト	1,493	1.86
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	1,247	1.55
ペアリング ガンジー リミテッド	1,238	1.54
(株)三井住友銀行	1,209	1.51

(注) 当社は自己株式1,370千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記の大株主から
除いております。

所有者別分布状況



株価・出来高の推移



社名 株式会社 パルコ

本店所在地 東京都豊島区南池袋1-28-2
TEL:03-5391-8000

本部所在地 東京都渋谷区宇田川町4-3
TEL:03-3477-5731

設立年月日 1953年2月13日

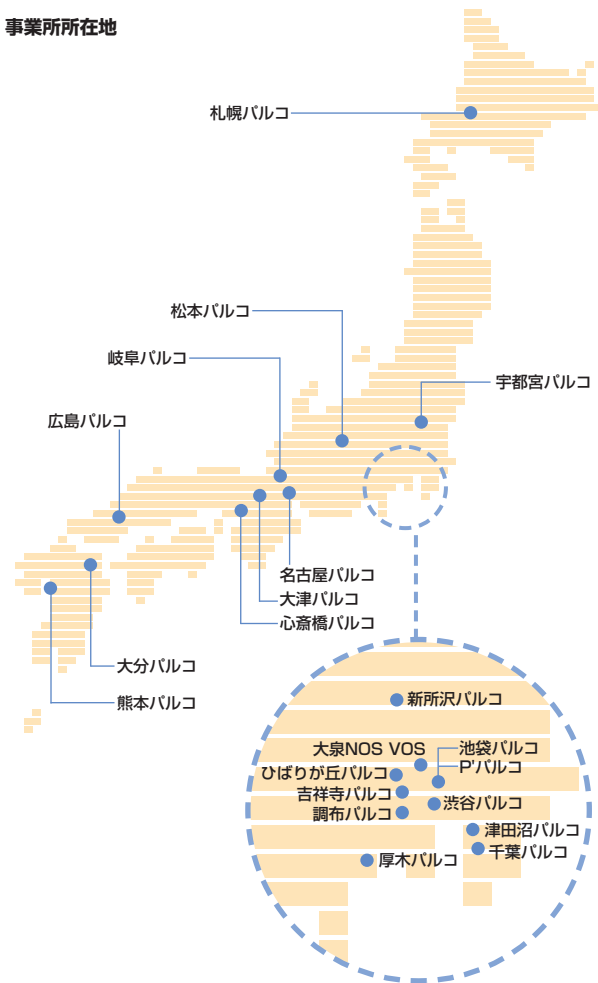
資本金 268億6,738万円(2004年9月30日現在)

従業員数 551名(男性 331名 女性 220名)
(連結従業員数 1,596名)(2004年8月31日現在)

役員

取締役会議長兼代表執行役社長	伊東 勇
取締役兼代表執行役副社長	坂口 俊郎
取締役兼代表執行役専務	藤島 基照
取締役兼常務執行役	吉岡 猛
取締役兼常務執行役	小嶋 一美
取締役	大野 宗彦
取締役	松田 修一
取締役	土岐 敦司
取締役	宮澤 乗自
執行役	山田 潤一
執行役	海永 修司
執行役	平出 浩朗
執行役	平野 秀一
執行役	長嶋 高志
執行役	牧山 浩三
執行役	井上 肇
執行役	山崎 浩一
執行役	阿部 正明

事業所所在地

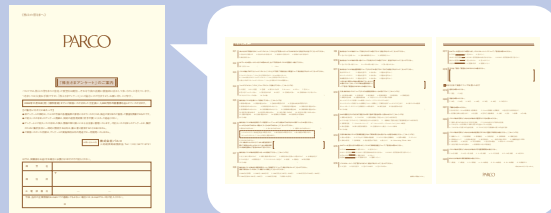


(注)大野宗彦、松田修一、土岐敦司、宮澤乗自の各氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

アンケートのお願い

パルコでは、株主の皆様のご意見・ご要望をお聞きし、今後の活動に積極的に活かしてまいりたいと考えています。同封された「株主さまアンケート」にご協力いただきますようお願い申し上げます。詳細は、アンケートをご覧ください。

2004年11月15日(月)(消印有効)



株主ご優待 <PECカードインターナショナル> を発行いたします

(毎年2月末日・8月31日現在、1,000株以上所有の株主様を対象としております)



パルコでのショッピングが毎年**5%OFF**

国内のパルコでのショッピングに、株主ご優待カードをご利用いただけますと、ご請求時にお買い上げ金額の5%を割引いたします。 ※一部割引の対象外となるショップがございます。

- ホテル宿泊料割引(クレストンホテル20%OFF等)要予約
- パルコ内の映画館入場料割引
- パルコミュージアム・パルコギャラリー入場料50%OFF(一部催し物を除く)

映画館ご招待券、ギャラリーパス券、カレンダーもお届けします

当社施設内の映画館ご招待券進呈

- 1,000株以上の株主様に2枚(年間4枚)
- 5,000株以上の株主様に6枚(年間12枚)
- 10,000株以上の株主様に10枚(年間20枚)



パルコギャラリーパス券進呈 (1,000株以上)

パス券の呈示で、1名様のご入場が無料となります。

パルコオリジナルカレンダー進呈

8月31日現在、1,000株以上の株主様にカレンダーを2点進呈いたします。

株主メモ

決算期	毎年2月末日	名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年5月に開催	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	2月末日 (その他必要があるときは、 あらかじめ公告いたします)	(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
配当金受領株主確定日	利益配当金 2月末日 中間配当金 8月31日	(電話照会先)	
1単元の株式の数	1,000株	(住所変更等用紙のご請求)	☎ 0120-175-417
		(その他のご照会)	☎ 0120-176-417
		(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
		同取次所	住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店

● 当社は、単元未満株式の買増制度を採用しております。詳しくは、上記名義書換代理人取次所、または、証券会社各社にお問い合わせください。